一　般　質　問

第５４２回北谷町議会定例会

質問者：仲栄真惠美子

月	日	質問事項	質問要旨	質問の相手
3	26	１　コミュニティバスと福祉行政について	（１）町のコミュニティバスと福祉行政の関係性を伺う。 （２）北谷町は西海岸の第三次産業の発展は大きく知られているところであるが、急速な高齢化や、もともとの町民の子育て世代の転出、出生率も若干ではあるが減少の傾向もみられる。その中、検証事業で設置されたコミュニティバス事業の運営方法が２転３転しているように思われる。存続を図るための改善としているが、実際に利用している人たちあるいは利用したいが利用できない町民の声をどのように拾っているか伺う。交通弱者の救済も設置目的に上がっていたと記憶しているが、福祉行政との関わりは大きいと思う。見解を伺う。 （３）利用したいが利用できないと訴えるのは高齢の交通弱者に多いと思われるが、子育て世代も病院等の定期通院への利用は、バスの予約が可能だが定期でない通院や買い物等の事前予約は間に合わないことが多く、利用できないとの苦情も多い。そういう声も把握しているか伺う。 （４）他市町村の運営方法など調査しているか伺う。沖縄市は、周遊バスとして運営しているようだが、人口比で比較にならないが利用者も多いと聞く。本町で当初行われていた方法は周遊であったと思われるが、現在のデマンド方式と利用者の傾向は変わったか、利用時間帯の変化などはどのようになったか伺う。 （５）周遊型とデマンド型を複合して、西海岸側と東部地域の周遊で北谷町役場が連結個所として運行し、その隙間をデマンド型としての運航はできないか伺う。そうした場合運営費の変化を伺う。また当初の運営費と現在の運営費の違いはどうか伺う。 （６）当初運航していたバスが町の駐車場に停車しているのが見受けられるがどのように活用しているか伺う。 （７）ちゅらーゆでは町内高齢者（老人クラブ会員）の料金は一般に比べ大分割引されている。今回、バスの利用料金が値上げされたが高齢者の料金の変更なしでの運営はできないか伺う。	町長

一　般　質　問

第５４２回北谷町議会定例会

質問者：仲栄真惠美子

月	日	質問事項	質問要旨	質問の相手
			（８）利用者アンケートは、どのような方法で行われているか伺う。個人への配布ではなく、高齢者に対しては各自治会の老人クラブ等の集会でアンケートを取ってもらう方法などの採用は可能か伺う。 （９）利用者を増やしたいのか一定の人が利用できれば良いと考えるのか伺う。ニライセンターも利用者が多く約１億円の運営費もほぼ町民へ還元されていると思う。バスも利用者が多ければ運営費が歳出されても町民への還元として考えられないか伺う。	
3	26	２　教育行政について	（１）１２定例会での一般質問でも取り上げたが、インターナショナルスクール通学児童生徒の公立学校への通学関係で起きる諸問題を改善するために、並行して通う児童生徒の保護者との話し合いは、その後動きがあったか伺う。話し合ってルール作りも必要ではないかと伺ったが、何か進展があったか伺う。 （２）県の教育委員会との連携は、その後、進展があったか伺う。 （３）同僚議員が他府県で外国籍の子ども達への支援の現状について視察を行い、沖縄県の環境とは違うものの、共生関係、永住権を希望するほど手厚く支援している事例について学んだようである。北谷町では一時的留学の様相を呈した児童生徒が多いようであるが、しっかりと保護者と向き合い児童生徒の困り感を解決する術を考えているか伺う。 （４）先日、浜川小学校、北玉小学校両校の外国籍児童の学習の実態を視察した。浜川小では全学年の児童数の約１割の生徒がインターナショナルスクールへ通い、年末年始と夏休みに大量に移動してくるとのことで、その対応に困っているようであった。特に一人で多数の外国籍の子の対応をしている日本語教室の職員が給食の係でもあり、その多忙さに疲弊するようである。普通学級の担任配置もぎりぎりの中、職員を加配することは不可能と校長の説明があった。サポーターの配置の考えはないか伺う。 （５）各学校に在籍する支援の必要な子、療育手	町長・教育長

一　般　質　問

第５４２回北谷町議会定例会

質問者：仲栄真惠美子

月	日	質問事項	質問要旨	質問の相手
			帳を持っている子、そうでないグレーゾーンにいる子も多く見受けられるが、教育委員会としては精一杯の支援を行っておられることに感謝いたします。グレーゾーンの子どもたちの救済はどのようになっているか伺う。 （６）インターナショナルスクールの子たちも同様に授業についていけない子が多いと聞く。以前学校支援のボランティアを募集して配置できないかも伺ったが、その後何か動きがあったか伺う。 （７）北玉小学校の、日本語教室の職員は二人体制でとても助かるとのことであったが、言語指導でなくても登校が楽しくなる心の安定のための居場所的な支援も必要との話もあった。そのようなサポートをする無償、有償ボランティアの募集等の見解を伺う。	